令和６年度　加古川「知」を結ぶプロジェクト　各チーム発表概要・所感・活動の様子

No.1

■チーム名　：望月ゼミ

■指導教員：望月　徹（経営学部）

■テーマ　　：さ、アップデートしよ？加古川住みじゃだめですか

■発表概要

SWOT 分析、クロス SWOT 分析から、強みと機会を掛け合わせ、「都会と田舎の良さを持ち合わせる加古川を子育てのベットタウンへと変える」作業仮説を導き、さらに、アンケート調査とペルソナ分析によって、駅前での「子供も大人も楽しめるワンダーランド」を核とした賑わいづくりイベント（マルシェ）の有効性を実証した。

そこへまた、福井ハピリン、和歌山キーノ、茨木おにクルなど先行事例のエッセンスを取り込むことによって、駅前エリア（＋篠原西線）にウォーカブルな空間が生まれ、かわまちエリア、寺家町エリアの半径 300mの加古川オリジナルな３つのウォーカブル空間の融合が、加古川に、単なる子育て施策を超えた新たな価値をもたらすことを示した。

■学生代表者所感

代表者：経営学部　２回生　羽田美空

私たちのゼミでは、中間発表後に新たに発表メンバーを選出し最終発表に臨みました。結成された当初はチーム間の意思疎通も思うように進まず作業も遅れがちで、自分たちのプランを進めることに苦労しました。そのため、指示を出すことに抵抗がありましたが、リーダーとして責任を感じ、プロジェクトの軸を作り、期限内に課題を提出するように導きました。その結果、賞をいただくことができました。特に１月中旬以降はリーダーとしての負担が増え、体力的・精神的に厳しい時期もありましたが、ゼミ全員のバックアップで仕上げたプロジェクトは貴重な思い出となり、賞を通じて努力が認められたことに大きな達成感を感じました。この活動を通じてやりがいを実感し、得られた成果は非常に有意義でした。

■活動の様子

主催 加古川市・甲南大学
協力 神戸新聞社

No. 2

■チーム名　：足立ゼミ

■指導教員：足立泰美（経済学部）

■テーマ　　：集う街加古川餃子屋コソラによるブランディング

■発表概要

本プロジェクトでは、加古川市の人気餃子店「コソラ」と連携し、地域ブランディングに挑戦しました。「コソラ」を単なる飲食店ではなく、「まちに人を集める場」として活用し、加古川の魅力を発信することを目指しました。ゼミでは「どうすれば加古川に人が集まるのか？」をテーマに、マーケティング戦略の視点から検討。地域資源を活かしたブランド構築の可能性を探り、具体的な施策を提案しました。本プロジェクトを通じて、学生たちは実践的な学びを得るとともに、地域活性化に貢献する機会を得ました。

■学生代表者所感

代表者：経済学部　２回生　植田　夢生

本プロジェクトでは、餃子屋コソラと連携し、加古川の魅力を全国へ発信するブランディング活動を行いました。私たちはSWOT 分析を用いてコソラのブランド価値を最大化する戦略を検討し、2024 年 10 月開催の「加古川楽市・楽座」にて屋台と店舗の餃子を食べ比べをし、「味・雰囲気・ブランド価値の違い」を分析しました。また、コソラの社長へ直接インタビューを行い、「人にも味にも町にもこだわる」ブランドの確立を目指しました。今回の取り組みを通じて、マーケティングの実践的な学びを得るとともに、地域活性化の可能性を探る貴重な学びになりました。

■活動の様子

No.3

■チーム名　：西村ゼミ

■指導教員：西村　順二（経営学部）

■テーマ　　：繋がる靴下

■発表概要

㈱神木の工場視察において未使用の靴下在庫に着目し、その利活用を考えた。また OEM 供給をする品質の高さに着目し、使い捨てではない、高品質の靴下の使用を考えた。具体的には学生の就活に活用する靴下である。未使用の不良在庫に「we're OK」というデザインを円形で刺繍し、 ドレス効果に着目して提案した。孤独になりがちな就活でも目立たない靴下で繋がる、そして品質の良い神木靴下で自信をもって行動できることを目指した。また就活生だけの繋がりにとどまらず、中学生や高校生の受験の応援、卒業後の活躍を想定し、プレゼントして応援することにより繋がりを表現した。さらには、地場産業の活性化と不要在庫の活用という点で SDG s の貢献も意図した。

■学生代表者所感

代表者：経営学部　２回生　池田ひなの

「20 人全員で活動する」をモットーにしている私達にとって、靴下のデザインを決める際、発表用のパワーポイント作成の際は、それぞれが込めたい思いがあるのにも関わらず、できるだけシンプルに、できるだけ簡潔にまとめないといけなかったので、すごく難しかった。そんな中でも、全員で意見を主張しあって、受け入れ合って完成したデザインは、私達誇りでもあり、自信である。様々な思いが込められた靴下を商品化することができ、今後も販売し続けられるのは、株式会社神木様や大学生協様のご協力あってのことなので、1 つのモノが出来上がる、広がっていくには様々な過程や様々な繋がりがあるのだと身をもって学ぶことができた。

■活動の様子

No.4

■チーム名　：金坂プロジェクト

■指導教員：金坂成通（マネジメント創造学部）

■テーマ　　：ココからひろがるともだちの輪（ワ）ン！　加古川地域密着ドッグフェス

■発表概要

私たちはワンちゃんが主役のイベント「ココアスドッグフェス」主催の株式会社花浄院から課題提供を受け、来場者の増加と飼い主コミュニティの形成について研究した。三木総合防災公園で行われたドッグフェスでの来場者・出店者アンケート調査結果と SWOT 分析に基づき、次の４つの策を提案した。①守る策としては、適切な開催場所を、②改善する策としては、靴下企業と愛犬美容専門学校とのコラボレーションを、③攻める策としては UGC が生まれるイベントとして写真コンテストの開催を、④差をつける方策としては愛犬合コン（わんわんサークル）の開催を提案した。これらを通じて来場者１万人超、利益確保と地域連携の強化、コミュニティ形成ができることを主張した。

■学生代表者所感

代表者：マネジメント創造学部マネジメント創造学科　奥村和奏

このプロジェクトを通じて、チーム全体で「実践的な課題解決の力」を学ぶことができました。花浄院様のドッグフェスの課題を分析し、開催場所の提案や地域企業とのコラボ、SNS 活用など、具体的な解決策を考える過程では、多くの試行錯誤がありました。特に大変だったのは、企業や自治体と連携する際の調整や、実現可能な提案を作ることです。しかし、チームで意見を出し合いながら工夫を重ねることで、より良いアイデアを生み出すことができました。また、メンバーそれぞれが得意な分野で力を発揮し、協力しながら進めることの大切さも実感しました。最終的に、自分たちの提案が企業の方々に受け入れられ話が進んだとき、大きな達成感がありました。この経験を活かし、今後も実践的なプロジェクトに挑戦していきたいと考えています。

■活動の様子